

「第17回 関財リレバン・ワークショップ」開催

～ 観光業による地域の活性化 ～

(平成24年1月18日(水) 於：甲府財務事務所)

1. 出席者

- ・ 県内銀行、信用金庫及び信用組合の再生支援担当者
- ・ 銀行協会、信用金庫協会及び信用組合協会
- ・ 山梨県中小企業再生支援協議会
- ・ 山梨県中小企業団体中央会
- ・ 山梨学院大学 現代ビジネス学部教授 藤原邦彦氏

2. 開催概要

☆ 平成15年度より取り組んでいる地域密着型金融の更なる推進を図るため、県内金融機関の実務担当者の方々をはじめ、山梨県及び業界団体の方にご参加頂き、ワークショップを開催しました。

今回は、山梨県にとって重要な産業の一つである「観光業」に着目し、「観光業による地域の活性化」をテーマに、観光産業に造詣の深い山梨学院大学の藤原教授による講演を交え、意見交換を行いました。



☆ 山梨県中小企業再生支援協議会からは、「観光業の事業再生について」と題し、県内外の代表的な温泉地の特徴を踏まえた事業再生について説明があり、山梨県中小企業団体中央会からは、県内観光業の景気動向について、ここ1年間の業況等についてお話を伺いました。

☆ その後、山梨学院大学の藤原教授からは、山梨を外から見ることにより、山梨の良さをもっと知ることが出来る。‘当たり前’として済まされている自然資産の豊かさを再認識し、感動を求めて訪れる観光客に、おもてなしの心をもって提供し、接することがサービスの真髄である。



山梨は観光（感動）の宝庫である。県内に点在する無数の観光資源を活かし、観光を元気にすることは、山梨県そのものを元気にすることであり、地域の活性化に繋がる。どう活かすかが課題である。として、参加者それぞれの努力により、潜在能力を引き出して欲しいと締めくくりました。

☆ 参加した各金融機関の担当者からは、「一泊滞在型の観光」を視野に入れた観光ビジネスの提案や、店舗を利用した観光PR、閑散期の克服に着目した取組み、大学生が考案した料理レシピの提案、自然災害で被災した観光施設の経済的支援など、それぞれの金融機関での取組事例や課題などが紹介されました。

☆ これを受けて行われた意見交換では、地域の活性化に繋げるための課題やポイントが出され、金融機関として求められる役割を再認識しての閉会となりました。

<活性化に向けての課題とポイント>

- ① 個別性の強い観光業を如何にして面的再生へと繋げていくかが大きな課題。
- ② 宿泊施設等の稼働率を高めるためには、経営者の努力も必要であるが、行政によるインフラ整備や観光客が求めている情報の発信も重要。
- ③ 県内に点在する観光地どうしの連携も重要な要素、その中で、宿泊を伴う旅行プランを、地元からどれだけ発信・提供できるかが大きな鍵。
- ④ 民間旅行会社が提供する情報は観光先と宿泊先、受け皿となる観光施設をニーズに沿ったものにしていくのは、個々の経営者であるが、それを物心面で下支えするのが県であり金融機関の力。
- ⑤ 宿泊を伴う観光を成功させるには、ニーズに合致した装置（施設）と経営者の頭（考え方）の切り替えが必要となるが、このことが難しい。